

根っからのタイガースファン 診察室もコレクション一色

鍵岡均さん かぎおかクリニック院長（兵庫県西宮市）



↑ 開業前には、阪神タイガース・元オーナーの久万俊二郎氏（右）から激励のために金本知憲選手直筆のサイン入りバットが贈られた

→ 診察室には、鍵岡さんが独自に収集したタイガースの選手のサインコレクションが並ぶ

撮影=田嶋 哲



横顔 オンタイムの



かぎおか・ひとし●1983年、兵庫医科大学卒業後、京都大学結核胸部疾患研究所附属病院肺生理学教室（現・京都大学呼吸器内科）に入局。同年、財団法人田附興風会医学研究所北野病院に入職。2008年1月、かぎおかクリニック開院。「患者との対話」をモットーに、呼吸器疾患の専門性を活かした丁寧な医療を心がけている

と人の輪が広がっていく。元球団オーナーの久万俊二郎氏は勤務医時代からの間柄で、開業後も引き続き主治医を務める。久万氏から贈られた選手のサイン入りグッズは、阪神甲子園球場のお膝元で開業する鍵岡さんにとって、患者の心をつかむキラーアイテムだ。「ここでは、阪神を通じて人と人とのつながりを実感します」

診療を終える頃、7回裏のタイガースの攻撃を告げるジョット風船が甲子園の空を舞う。鍵岡さんが一日の疲れを癒す瞬間だ。

「両親ともに根っからのタイガースファン。タイムリーヒットが出るたびに居間から歓声が聞こえる環境で育ちました」と微笑む鍵岡均さん。関西で生まれた瞬間からファンを宿命づけられていた。1985年の優勝の翌日には、早朝にスポーツ新聞を買い求め、勤務先の病院で配布。医局で優勝祝賀会を催した。また、回診では患者と虎談議に花を咲かせ、診察を忘れたエピソードも。「厳しい病状のなかでも、試合結果に一喜一憂する患者さんの姿を見ると心が和みます。日々病氣と闘う患者さんとの会話に阪神の話題は欠かせません」

そんな鍵岡さんの周囲には、阪神を通じて自然